

AV ニュース エクスプレス

「平成13年度子どもゆめ基金助成活動」
「フィルムで見る20世紀の日本」
「第2回公開著作権セミナー」
「インターネットを活用した国際交流シンポジウム」
「第18回情報教育政策セミナー」
「放送批評懇談会シンポジウム2002」
「エデュテイメントフォーラム2002京都」
第40回（平成14年度）「日本産業映画・ビデオコンクール」
（財）松下視聴覚教育研究財団「第13回研究賞」
「第23回北陸三県教育工学研究大会福井大会」「第24回全日本
教育工学研究協議会北陸大会」

AV 情報

「平成13年度子どもゆめ基金助成活動」決定

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターでは、「子どもゆめ基金」による平成13年度の助成活動を決定した。「子どもゆめ基金」は、21世紀を担う夢を持った子どもの健全な育成の一層の推進を図ることを目的として、民間団体が実施するさまざまな子どもの体験活動や読書活動等への支援を行うために、平成13年度予算において当該法人に設けられた。本年度は全国から2,068件の応募が寄せられ、「子どもゆめ基金審査委員会」にて審査の結果、助成金交付件数1,588件、助成金交付額12億9,217万3千円が決定された。この内、「教材開発・普及活動」部門として、

29団体（助成金交付額2億8,150万5千円）が選出された。交付決定を行った活動（団体名・活動名・交付決定額）については、下記のホームページを参照。<http://cs.kodomo.nyc.go.jp/yume/index.html>

「フィルムで見る20世紀の日本」記念上映会開催

東京国立近代美術館フィルムセンターは、美術館本館のリニューアル・オープン記念展「未完の世紀 - 20世紀美術がのこすもの」の関連企画として、標記記念上映会を開催する。

<日程>

平成14年3月5日（火）～3月24日（日）月曜休映

<会場>

東京国立近代美術館フィルムセンター（東京都千代田区北の丸公園）

<上映作品 / スケジュール>

電話照会あるいはホームページを参照。電話 03-3272-8600（ハローダイヤル）<http://www.momat.go.jp/fc.html>

研究会情報

「第2回公開著作権セミナー」開催

（社）全日本テレビ番組製作社連盟では、関係各省庁の担当者をパネリストとし、新しい時代の著作権の在り方と、映像製作者の対応を探るべく、パネルディスカッションを開催する。

<日時>

平成14年3月12日（火）13:00～16:30

<会場>

千代田放送会館大ホール（千代田区紀尾井町1-1）

<テーマ>

『ブロードバンド時代のソフト流通促進のための国の支援策

ブックレビュー



「教育関係者のためのインターネット時代の著作権 もうひとつの『人権』」
2002年版
岡本 薫著 財団法人全日本社会教育連合会 平成14年1月刊 A5判
220頁 1,600円(税別)

著作権についての意識は、ここ数年高まってきているが、とすれば教育を受ける権利のため、著作者の権利を制限する例外規定を、勝手に解釈したり、急速な情報メディアの発達により新たな問題が派生している。本書では、現代は、誰もが著作権の権利者であり利用者となりうる時代であり「著作権は、著作者の権利としての心や利益を守ることや、著作隣接権という伝達者の権利を守るルールであり、人の権利を侵さないように、また守るように作られたものである」という著作権の基本的な理念をわかりやすい例と言葉で述べている。

第3章・4章で、著作権者の権利(著作権)伝達者の権利、著作隣接権について、例をあげながら、平易な言葉で具体的に

解説していることや、第5章の著作物の利用をめぐるQ&Aは、教育関係者にとって明快な回答が非常に参考になる。とくに、注目したいのは、第6章のITと著作権の関係、第7章では権利者と利用者の相互理解に基づく“契約”という考え方を取り上げている。第8章の教育活動と著作権では、ネットワーク化による公衆への送信という問題が権利者に損害を与える可能性を指摘している。

また、教育利用に限る権利の例外規定については、関係者は必ず読んで欲しいし、考えて欲しい問題である。世界でも進んだわが国の著作権制度、それに対して権利者や利用者の意識の低さをズバリと指摘している点、耳が痛い。教育関係者必読の書である。(松田 實)

新しい時代への映像製作者の対応とは?』

<参加費> 無料

<問い合わせ先>

全日本テレビ番組製作社連盟事務局 電話03-3582-8063

<http://www.atp.or.jp/news01.html>

「インターネットを活用した国際交流シンポジウム」開催

(社)日本教育工学振興会では、学校への情報化が進められる中、普通教室で情報機器を有効活用するための一助となるよう、標記のシンポジウムを開催する。

<日時>

平成14年3月15日(金)13:00~16:40

<会場>

パシフィコ横浜・アネックスホール・展示ホール2F(横浜市西区みなとみらい1-1-1)

<内容>

基調講演...テーマ:新しい教育課程でのIT活用 - 普通教室からの国際交流 / 講師:赤堀侃司(東京工業大学教授) 実践報告...インターネットを利用した小学校の国際コミュニケーション パネルディスカッション...テーマ:国際交流における課題と実践 / コーディネータ:藤村裕一(鳴門教育大学大学院助教授) / コメンテータ:赤堀侃司(東京工業大学教授) / パネリスト:現場の先生を3名予定

<参加費> 無料

<申込方法>

下記のアドレスより申込書入手し必要事項を記入・送信する。(FAXでも可) FAX03-5251-0752、<http://www.japet.or.jp/jnews/yukisem5.htm>

<問い合わせ先>

(社)日本教育工学振興会 電

話03-5251-0751

「第18回情報教育政策セミナー」開催

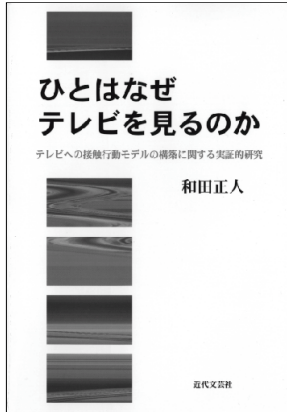
(社)日本教育工学振興会は、各所管の政策責任者をパネリストとして迎え標記セミナーを開催する。新学習指導要領の完全実施を目前にし、「教育の情報化」に拍車がかかる中、関係省庁もミレニアムプロジェクト、e-Japan戦略等を通して互いに連携し、積極的に政策を進めている。本年のセミナーはこうした新しい動向を反映した、平成13年度の補正予算事業ならびに14年度新予算事業等を含め、関係省庁が展開する『ブロードバンド時代の教育改革』についてのディスカッションを行う。

<テーマ>

『ブロードバンド時代の教育改革』

<日時>

ブックレビュー



「ひとなぜテレビを見るのか - テレビへの接触行動モデルの構築に関する実証的研究」

和田正人著 近代文芸社刊 2001年
11月刊 四六版 112頁 1,300円
(税別)

テレビの放送開始以来、50余年たった現在、家庭におけるテレビの普及率は99%を超えている。

また、NHK放送文化研究所の国民生活時間調査によれば、日本人は一日に平均3時間以上テレビを見ているという。すなわち、人生80年として、われわれは、延べ10年間以上、テレビを見ている計算になる。それでは、ひとなぜテレビを見るのか。この疑問に答えるカギを、本書は提供している。

ここでは、ある行為が生じる確率を、「習慣」、「行動意図」、「生理的覚醒」、「促進条件」の4要因から説明するハリー・C・トリアンディスの一般行動のモデルを基に、テレビへの接触行動のモデルの構築を試みている。まず、テレビへの接触行

動に関する研究を概観し、接触行動に関わる諸要因を規定したのち、要因間の関連性、および、それら要因と接触行動との関係を理論的に検討するとともに、実証的に明らかにしている。

映画を観たり、ラジオを聞いたりする場合は異なり、ひとは必ずしも、「この番組を見よう」、「この情報を得よう」と考えてテレビを見るとは限らない。本書では、テレビへの接触行動を選択的接触行動と、非選択的接触行動とに区別し、それぞれの行動のメカニズムを検証している。

すなわち、ひとなぜ、「あえて」テレビを見るのか、また、「なんとなく」テレビを見るのか。このふたつの問いに対する答えを、ここに見出すことができる。(吉田 広毅)

平成14年3月16日(土) 13:00~17:30

<会場>

パシフィコ横浜・アネックスホール2F(横浜市西区みなとみらい1-1-1)

<参加費>

教職員・教育委員会等1,000円/一般5,000円

<問い合わせ先>

(社)日本教育工学振興会事務局 電話03-5251-0751 <http://www.japet.or.jp/>

「放送批評懇談会シンポジウム2002」開催

放送批評懇談会は、地上波デジタルを徹底的に多角的に論議すべく、標記シンポジウムを開催する。

<日時>

平成14年3月18日(月) 10:00~17:00

<会場>

日本都市センター会館(東京千代田区平河町2-4-1)

<対象>

放送関係者、企業メディア関係者、通信事業者、インターネット関連会社、自治体、研究機関等

<内容>

特別講演「地上デジタル時代に臨む産業界」(講師:榎木好明...松下電器産業常務取締役)/「地上デジタルが地域に与えるインパクト」(講師:北川正恭...三重県知事)/「NHKの地上デジタル戦略とビジョン」(講師:海老沢勝二...日本放送協会会長) パネルディスカッション「地上デジタルで民放経営はこう変わる!」(コーディネーター:菊地実...メディア開発・綜研主席研究員/参加社:日本テレビ、毎日放送、北海道文化放送、全国朝日放送、

テレビ東京) 分科会「ブロードバンド 放送の味方かライバルか」/「ホームサーバーTV受像機進化論」/「モバイルメディア 新たなビジネスモデル」

<受講料>

放送批評懇談会会員33,000円/一般38,000円(資料・昼食代を含む)

<申込締切>

平成14年3月8日(金) 定員400名

<問い合わせ先>

放送批評懇談会 電話03-5379-5521

「エデュテイメントフォーラム2002京都」開催

エデュテイメントフォーラム2002京都実行委員会は、教育産業の振興と「総合的な学習の時間」・「情報教育」の推進を目的とし、「産学連携から生ま

れる新しい教育」をテーマに標記フォーラムを開催する。

<開催日時>

平成14年3月28日(木)~29日(金)10:00~17:00

<会場>

京都リサーチパーク 1号館4階(京都市下京区中堂寺南町17)

<対象>

教育関係者、教育・情報関連企業

<入場料>

無料

<内容>

特別講演「情報化社会に求められる人材とこれからの教育」をテーマに産と学の視点からエデュテイメントの明日を考える講演会

実践事例発表 民間のノウハウや教育コンテンツを活用したユニークな学習活動事例の紹介。総合的な学習の時間、教科教育や情報教育、e-learning等、先駆的に取り組んでいる教育関係者が具体的な授業展開例と成果を報告する。

展示 事例発表で紹介された教育コンテンツやシステムを中心としたデモ展示。授業で使える教育コンテンツ、学校における先進的な教育システムなど、新しい教育を体験できる。

<問い合わせ先>

エデュテイメントフォーラム
2002 京都事務局 電話 075-315-8326

コンクール情報

第40回(平成14年度)「日本産業映画・ビデオコンクール」開催要項発表

(社)日本産業映画協議会は、すぐれた産業映画・ビデオを選奨し、その質を高め普及を図るとともに、日本の教育・文化の

向上と産業の振興に寄与することを目的に、標記コンクールを開催する(協賛:日本視聴覚教育協会他)。参加部門は教育訓練部門、学術・研究部門、教養部門等(8部門)。

応募締切は3月31日(日)。審査結果は5月末日の毎日新聞紙上で発表される。

<問い合わせ>

日本産業映画協議会事務局
電話03-3213-2696

(財)松下視聴覚教育研究財団「第13回研究賞」受賞者決定

(財)松下視聴覚教育研究財団は、このほど標記「研究賞」の受賞者を発表した。この賞は、実践研究助成の助成者から研究成果を育て深めるために、視聴覚メディア・情報メディアの活用研究報告を募集し褒賞的助成を行うもので、該当は次の通りである。

<文部科学大臣賞>

「病弱児童生徒におけるテレビ会議システム等の教育利用の研究」(京都府立城陽養護学校)

<理事長賞>

「高等学校普通教科「情報」カリキュラム開発に関する実践的研究」(岐阜県学習システム研究会高校教科情報教育カリキュラム研究プロジェクト) / 「ニューメディアで新しいパートナーシップを世界に築こう！」(大阪府河内長野市立南花台東小学校)

<森戸辰男記念賞>

「花室川プロジェクト:ビデオメールによる児童主体の遠隔共同学習の研究」(茨城県つくば市立並木小学校) / 「メディア・ディレクターを育成する自主研修プログラムの開発(岡山県中学校理科研究サークル)

<問い合わせ>

松下視聴覚教育研究財団

電話03-5460-2705 <http://www.mef.or.jp/>

各地の情報

「第23回北陸三県教育工学研究大会福井大会」「第24回全日本教育工学研究協議会北陸大会」開催

福井県教育工学研究会、福井大学教育地域科学部附属教育実践総合センター、日本教育工学協会の主催により、研究発表ならびに「地域に学校をひらく子ども放送局 学校紹介番組の作り方」と題しフォーラムを開催する。

<日時>

平成14年3月3日(日)9:30~16:00

<会場>

福井大学教育地域科学部1号館(福井県福井市文京)

<参加費>

無料 資料代1,000円

<問合せ先>

福井県教育工学研究会事務局(福井大学教育地域科学部附属小学校内) 田代光一先生 電話0776-22-6891

訃報

元東映株式会社取締役、前東映CM株式会社社長、元(財)日本視聴覚教育協会評議員の本田勝氏は、去る1月27日ご逝去された。享年70歳。

お詫び

本誌平成14年2月号84頁の「ホームページ紹介」記事に下記のような誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

「花を楽しむ」URL

(誤)<http://www.hanaippai.com/hanaippai/tpa/>

(正)<http://www.hanaippai.com/>